

平成29年度第3回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会 議事録

- | | |
|-------|---|
| ■開催日時 | 平成29年10月31日(火) 午後4時00分～ |
| ■開催場所 | 四條畷市役所 本館3階 委員会室 |
| ■出席者 | 平井 拓己、松川 圭一、高見 耕示、狭山 清隆、 小宮 宮子、堀 潤治、北田 澄子、 市民生活部 産業観光課(事務局) |
| ■欠席者 | 坂本 知久、藤本 正次 |
| ■次第 | 1 パブリックコメントの結果について 2 産業振興ビジョンの改訂に係る案の検討について |

【平井委員長】

ただいまから、平成29年度第3回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を開催します。

私は、当協議会の委員長を拝命しておりますプール学院大学の平井と申します。よろしく願いいたします。

それでは、市民生活部の山本様から、ご挨拶をお願いします。

【山本部長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。平素は市制の各分野にわたり、ご理解、ご尽力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会は、今回で最終となり、この後、11月14日の特別委員会を経て、2月の定例会へ向けて進めてまいります。

本日も、何卒よろしく願いいたします。

【平井委員長】

山本様、ありがとうございます。

本日は、四條畷市マーケティング監の西垣内様が出席されています。

また、大阪東部農業協同組合の坂本様は都合により、田原農業研究クラブの藤本様は体調不良のため欠席されています。

続きまして、本協議会の委員構成に変更がございましたので報告します。四條畷市農業委員会の中井様から狭山様に代わられました。狭山様、簡単なご挨拶をお願いします。

【狭山委員】

農業者の一人として意見を述べるようにとのことで、中井に代わり参画することになりましたので、よろしく願いします。

【平井委員長】

狭山様、ありがとうございました。

それでは、次第に添って進めてまいります。

まず、次第1の「パブリックコメントの結果について」です。事務局より説明をお願いします。

(事務局より、パブリックコメントの結果概要について説明)

【平井委員長】

事務局から説明がありました件について、皆さまからのご意見をお願いします。

【堀委員】

前はパブリックコメントに対して意見がゼロでしたが、今回は1件ありました。募集の仕方や文章を変えるなど、何か方法を変えたのでしょうか。

【事務局】

募集方法は、他のパブリックコメント募集と同様の方法で、市広報誌、ホームページに掲載し、担当課・情報公開コーナー・四條畷図書館・田原図書館・支所に設置し、市民の皆さんに公開しています。

【堀委員】

広報の募集の文章を見ましたが、市民にはとても分かりにくい書き方で、とても意見しにくく、難しい内容だと思いました。市民にとってハードルが高かったように感じます。

【事務局】

市では、全てのパブリックコメントを同じ方法で行っています。

産業振興ビジョンでは個々の事業ではなく大きな将来像を示していることから、意見を出しにくい部分はあるかと思えます。一般市民の方から見ると、正直なところ難しいのではと感じています。

【堀委員】

商業の基本戦略の部分を変更されていますが、「商店街に人を集める」のままで良いのではないのでしょうか。焦点がぼやけてしまったような気がします。

【事務局】

ご指摘の部分は、後ほど、修正点等をまとめてご説明しますので、その際に併せてご説明いたします。

【平井委員長】

パブリックコメントについては私も想いがあり、7年前に実施した際も、昨年に改定を検討した際も意見が無く、そこは大きな課題だと思います。市民の方々は、市役所が産業振興を進めることに対してどれくらい関心を持っているかということで、これから、どうやって浸透させていくかが大きな課題だと思います。四條畷市には大きな産業や有名な地場産業が少ないので、市民にも意識されにくいようです。商業、工業、農業をどのように活性化していくか、浸透させていくかは重要です。

そのような中で、今回、お一人の方が6件の意見を提出されたのですね。

【小宮委員】

観光の基本戦略について、「継続的な収益につなげる体験型イベントや施設の連携を想定」とありますが、具体的な事を検討されているのでしょうか。

【事務局】

現時点で、具体的にお示しできる内容はございませんが、他市にぬきんでる地域資源が少ない本市にとって、既に存在する資源を用いた体験型イベントと組み合わせ、宿泊して頂けるような環境を作っていくことで来街者を呼び込もうと。例えば、ゆずりはさんであれば、ハイキングとアイアイランドが結び付く可能性についても提案していきたいと考えます。市役所がコーディネートすることで、様々な場面で点と点が結び付く仕組みを検討していきたいと思えます。

【小宮委員】

例えば、3,000 円程で泊まれる簡易宿泊所を設置するというような趣旨ではないのですね。

【事務局】

この先、議論が変化していくかも知れませんが、箱モノを建てることは、将来に向かって負担が増えることになると思えます。宿泊事業に魅力があれば民間事業者が宿泊施設を建てると思えます。箱モノを作るというよりは、魅力を整え、事業者に参加して頂くというのが理想の形と考えます。市役所が全てを解決するのではなく、間に入って色々な人や物を結び付けていくことで、それぞれ事業者が成長していく環境作りに努めていきたいというのが、この度の産業振興ビジョンの趣旨でもあります。

また、本ビジョンとは別に、空き家、空き店舗の対策について、庁内で議論を進めているところです。そのなかで、民泊などの検討も出てくると思えます。

【平井委員長】

他市のこととなりますが、宿泊施設を市が誘致し、ホテルが建ったという事例もありますので、四條畷市に宿泊のニーズがあれば、そのことを対外的に発信することで、事業者の参加を促すこともできると思えます。

続いて、次第2の「産業振興ビジョンの改訂に係る案の検討について」です。事務局より説明をお願いします。

(事務局より、変更点等について説明)

【堀委員】

11 ページ、商業の基本戦略「人が集まる店舗づくり」に関して、「商店街づくり⇒店舗づくり」に修正されているが、商店街の活性化という意味なのか、全体的な底上げという意味なのか、どちらでしょうか。

【事務局】

一般市民から見て、ビジョンを理解してもらうために「商店街」という言葉を用いる方が理解しやすいと考えますが、この辺りについてご意見を頂ければと思えます。

【平井委員長】

店舗づくりということは、商業集積も含めるという解釈ができるのではないかと。

【松川委員】

事業者の支援とは、個人に対する支援という意味から始まっていますが、流れからみるとここで店舗にしても問題はないと思えます。また、店舗にすると個々の問題になり、商店街という全体的な感じの意味合い薄れるかも知れません。

【事務局】

商業の基本戦略である「商業の支援と育成」と「人が集まる店舗づくり」は、ゴールは似ていると思います。商店街という言葉を用いることのメッセージ性の強さはあると思われ、その言葉を産業振興ビジョンに入れることによって、商店街を盛り上げていくのだという意味で「商店街」を用いる方が良いと考えます。店舗となると「個」のイメージが強く、個への支援を入れることがよいのかどうか。

【松川委員】

両方を入れることはできないのですか。人が集まる商店街・店舗づくりという具合に。

【平井委員長】

商店街以外の店舗はどうなるのかという議論にも繋がると思いますので、両方の観点について考える必要もある訳ですよ。

【事務局】

基本戦略①の「創業者の支援」がそれらを包括する言葉になっていると考えます。産業振興ビジョンを作るにあたり、言われているのは「市民に分かりやすく」です。庁内の検討会は、硬くなっていく傾向があります。店舗にも商店街にも人が集まってほしいので、「人が集まる店舗や商店街づくり」とすれば良いとも思います。その辺りも含めて、事務局で再検討いたします。

【平井委員長】

基本戦略は市内の商業全体をとらえていると思います。大事なことは、これに基づいたアクションプランと整合しているか否かだと思います。

他にご意見はございませんか。

【堀委員】

14 ページ「地元への愛着と市民交流を育む取組み」とありますが、市民交流をしたうえで地元への愛着がでてくるというよりは、郊外から来街者が来てくれて、地域を褒めてくれるということが結果的には地元への愛着に繋がるのではないかと思います。その点でも、市民交流よりも域外交流や人口交流という言葉が合っていると思います。

【平井委員長】

市民にも地元の資源を理解、認識してもらいましょうということでしょうか。例えば、地域外から来た方が商店で親切にしてもらい、またここに来たいと思えるということも含めてですね。

【堀委員】

観光という観点では、その方が、地域にとっても愛着が持てると思います。

【事務局】

頂いたご意見を踏まえて、再検討いたします。

【小宮委員】

14 ページ KPI が「観光施設訪問者数」から「主要駅の平均乗車人員」に代わりましたが、観光分野以外の増減

は把握が難しいと思うのですが。

【事務局】

頂いたご意見は十分に理解しております。市として何をめざすのかをメッセージとして伝えるために、敢えて選ばせて頂きました。当然ながら市内の観光施設の数は容易に把握できます。しかしながら、3 ページの 3 にもあるように、「四條畷らしさをいかして、あらたな四條畷らしさを創り出す」ということを議論してきました。既存の物も大切ですが、新しく今までにないものを創り出していくという視点を今回のビジョンに取り入れました。駅の利用者数が分かりづらいというご意見ですが、過去 5 年間の乗車人員を調べ、自然増の数字を織り込んだうえで人数を設定しています。アンケートを取るというご意見について、物理的には可能ですが、現実的には多くの時間・労力が必要になります。アクションプランが動き出し、想定する乗車人員の自然増よりも一定上乗せした数値の達成により効果を検証するということです。

【平井委員長】

何故、増えたのかという原因がはっきりしていることが重要で、その中身を説明できれば問題ないと思います。

一方で、今回この指標に変えたことは良いと思います。既存の観光施設を指標にしてしまうと、そこを何とかしようという施策になってしまう。そうすると新しい魅力を作るとか、市全域に来街者が増えたことなどが把握しにくくなる。新しい取り組みを考えるとときには、このような幅を持たせた指標が良いかなと思います。

【小宮委員】

イオンができましたよね。四條畷駅からイオン行のバスが出ています。それにより駅の利用者が増えると思いますが、実際に増えた数値が観光として増加したのかどうかということです。

今、四條畷駅や忍ヶ丘駅は利用者が増えていますよね。ですので、何をもって人口増というかどうかは大事だと思います。

【平井委員長】

要因把握を正しく行い、その原因を正しく説明するとういことですね。

【狭山委員】

駅の話が出ましたが、観光で来られるのは土日祝日です。その日の利用客の増減を見ればわかるのではないのでしょうか。付近の道は土日祝日になるとハイキング客が歩かれますが、最近増えました。以前はそうでなかった。安くハイキングできる場所として市内から 15 分の四條畷に来られる人が増えたのではないのでしょうか。その方たちが四條畷でお金を使ってくれるかどうか問題だと思います。

【堀委員】

私は、このままで良いと思います。定住人口やバス乗車人員など、ある程度はデータで見れば分かるでしょうし、その数値を差引すれば良いと思います。

【北田委員】

少し話が違っても知れませんが、四條畷は施設が充実していないという話を聞かれます。寝屋川の野外活動センターに比べて、四條畷の施設は今ひとつ。その意味では既存施設の充実も課題だと思います。また、観光地のトイレはどこ行ってもきれいですので、市の公衆トイレも考えてほしいです。

【平井委員長】

利用に際しては市民だけでなく市外の方の目線も必要な訳ですよ。ありがとうございます。
何かほかにご意見はございませんか。

【事務局】

5 ページの産業振興ビジョンの位置づけですが、図ではシティプロモートの中にビジョンと街づくりが包含されていますが、上の説明の中では、「シティプロモートの考え方を盛り込みつつ」と表記されていて、あくまでスパイス的な扱いであり、図と文章との関連性がわかりにくく、シティプロモートの領域が広いように感じていますが如何でしょうか。

【事務局】

今までにないシティプロモートの考え方を分かりやすく表現するための図であり、其々の計画の中にシティプロモートをどう活かしていくかということが前提にあります。

【平井委員長】

乖離が大きいと思わないですが、表記については事務局側で検討してみてください。

それでは、今までの議論を踏まえて、これをビジョン案として進めていくこととなりますが、皆さまよろしいでしょうか。(委員了承)

では、事務局もこれに沿って進めてください。

その他の案件についてですが、事務局からスケジュールを説明願います。

(事務局より、スケジュール説明)

【事務局】

また、ビジョン策定後はアクションプランを練る作業に移行する訳ですが、市長をはじめ市議会や協議会の皆様から若年層の意見を取り入れるよう、ご意見を頂いております。

今後、この協議会においても若年者の方々からの視点を取り入れるべく、各関係団体等にご提案させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

【平井委員長】

以上で、平成 29 年度第 3 回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を終了といたします。
ありがとうございました。